宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長　平川 新（ひらかわ あらた）

未来への航路

①私と石巻

濱田直嗣前館長のあとを受けて、昨年4月にミュージアムの館長に就任しました。よろしくお願いいたします。このたび石巻日日新聞から紙面を提供していただくことになりましたので、毎月1回、連載させていただきます。サン・ファン館の館長ですので、伊達政宗や慶長遣欧使節のことなどを取り上げますが、話題を広げるために、それ以外のことにもふれていきたいと思っています。

石巻市史の執筆

私と石巻市との最初の関係は、1988年から始まった石巻市史の編さんに参加したときでした。もう35年も前のことになります。私の恩師である東北大学の渡辺信夫先生から、君も石巻市史の編さんを手伝いなさいといわれて編集委員になりました。37歳のときです。

編集委員長は当時、石巻高校の石垣宏先生でした。石垣先生とはその後、2001年に発足した「石巻若宮丸漂流民の会」でもご一緒させていただきました。若宮丸漂流民については、また改めて触れることにしたいと思っております。

石巻市史での私の担当は、牡鹿半島の漁業や塩業でした。牡鹿半島とはいっても当時は平成の合併前でしたから、主に牡鹿半島の西側が対象でした。渡波から十八成浜あたりまで、何度も浜を訪ねていきました。狐崎浜を訪ねて漁師の方から聞き取り調査をしたあと、シャコエビをたくさんいただいたこともありました。

どこの漁師さんだったかは忘れましたが、ホヤは刺身やポン酢だけではなく、軽くあぶると甘みが出ておいしいよと教えていただきました。家に帰ってさっそく試してみると、たしかにうまかったですね。今でもホヤの季節になると、時々あぶって食べています。

いつのころからか、新幹線の車内販売でホヤの薫製を売るようになりました。ほかではあまり見かけなかったので、出張のたびに買っていました。今は石巻の元気市場や仙台駅でも売っていますので、手に入れやすくなりました。ありがたいことです。

大謀網の船に乗って

石巻の漁業として、明治以降に大謀網漁のことが出てきます。どういう漁なのか、実際に見学させていただくことにしました。市史編さん室の手配で田代島の民宿に泊まり、翌朝4時ころ出漁する船に乗り込ませていただきました。

まだ朝は明けていません。遠くに人家の灯りが浮かぶ暗闇の海を船は突っ切って進んでいきました。上下に大きく揺れて、何かにつかまっていないと立ってはいられないほどでした。そのため、15分もたたないうちに船酔いしてしまったのです。しゃがみこんでいると船長さんに寝てなさいと言われましたので、しばらく横になっていました。そうすると、気持ち悪さもかなり落ち着きました。それ以前、誘われて海釣りに行ったときも、すぐに酔ってしまっていたのですが、デッキに仰向けになって雄大な空を見上げていると、ゆらゆらとした揺れも心地よく感じられるから、不思議なものです。

でも、ずっと寝ていたのでは取材になりません。漁場に着いたらなんとか起き上がって、網を引き上げるところを必死で見ていました。船は大きく揺れますので船酔いは前より激しくなって、立っているのもやっとでした。また横になって、次に起き上がったのは魚市場に着岸したときだったのです。ほんとに情けない取材になったことを今でも思い出します。

（次回は8月21日）

平成15年、田代島周辺での大謀網の様子

垣網とふくろ網の二部で構成される大謀網

ひらかわ・あらた
昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26―31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。